

6月9日つまり本日、東海地方も梅雨入りが発表されました。毎日のように続く雨は私たちの日々の暮らしには厄介なものではありません。がしかし、農家の方々にとって、この雨は実に恵みの雨であります。この雨を田に溜めることで田植えしたばかりの苗は根を定着させ、雑草の種に酸素が届かなくなることで農薬の使用量を減らす効果があるのだそうです。

もっとも、水田を取り巻く自然現象は様々な障害をもたらし、稲の生長を阻害しようとし、時機に応じて施肥をし、除草をし、病害虫を駆除していかなければ稔りの時を迎える事なく稲は立ち枯れていくことになります。

さて、翻って子供たちを稲と見た場合にいかがでしょうか。小学校の頃が梅雨時でしょうか。なんとか伸びてしっかりと根を張ってくれました。いろんな病気にも耐え、今栄養をしっかりと貯め込む段階です。株が増え、葉が茂り、茎が太くなり、大きな実が出来ても倒れないような基盤を形成するときであろうかと思うところでございます。

しっかりと根がはり枝葉が茂っても実りの少ない稲では、せっかく育ててきた苦勞が報われませんし、大きな実がたわわについても倒れて収穫できないようになってしまえば、これまた同じ事でしょう。まさに全人的な教育が求められるところであろうかと考えるところです。

幸いに本校の教育方針はこの方向に向いており、校長先生以下一丸となってご指導いただいているところでございます。保護者としても先生がたを信頼しつつ、丸投げではなく、その責任を担っていく必要が当然あるものと思います。本日は学習部会の皆さんの御骨折りで「進路実現に向けて」と題する講演会を企画して頂きました。本校進路指導主事の近藤慶先生より、豊富な経験に基づいた御話がうかがえるところでございます。こうした機会を積極的に利用しながら実り多い人生を親子ともども送って行きたいと思っております。